

第2回けやき大通り再生検討委員会 議事要旨(案)

日時：平成22年8月24日(火) 13:30~15:30

場所：ルミエール華月殿 6階 富士の間

○議事次第

- (1) 第1回議事要旨について
- (2) アンケート調査の結果について
- (3) 第1回ワークショップについて
- (4) けやき大通り有効利用方針（利用計画案）について
- (5) その他

[意見の概要]

●けやき大通りの道路状況の現状や問題点、道路整備に対する提案・要望など

1. 第1回ワークショップでは今の時代におけるけやき大通りの役割として「歩く、健康」があるのを感じた。
2. 第1回ワークショップでは斬新な意見として「水」を取り入れていこうという意見があった。
3. けやきをどうするかが中心の課題。どうすれば賑わいが確保出来るか。この暑い中歩くには木陰が必要である。樹木の大切さを改めて思った。
4. アンケート結果をみると、整備済みのA区間は、道路の機能・構造という点では大きな問題はない。よって、未整備のB区間は、A区間と同様とし、自転車への配慮などについて改善していけばよい。
5. アンケート結果をみると、A区間、B区間に共通の課題は「賑わいが無い、歩く魅力が乏しい、外から来る人への配慮が無い」である。今後の取り組みの基本方針としては、「賑わいの魅力をいかにつくるか」である。
6. 示された計画案はいずれも中央分離帯があるが、中央分離帯を残さなければいけないのか。中央分離帯をなくす案を考えたかどうか、また採用しない理由があれば教えて欲しい。ちなみにシャンゼリゼ通りには中央分離帯はない。
7. 道路構造令上、4車線以上の道路には中央分離帯は設けることになっている。交通事故防止、夜間のライトの防眩、植樹による環境対策等のために、多車線道路から中央分離帯をなくすのは問題がある。
8. バス事業者の立場としては、本線から優先レーンに入るのに死角があり、衝突事故にならなくとも、急ブレーキを踏むことで高齢者の方が転倒する車内事故が多発している。
9. 本線車道から左折する車両と側道から出てきた車両との衝突事故の対策について、国道24号とその側道では側道用の信号機が設置され、交通事故が減少した。ここでも側道用の信号機を利用してはどうか。
10. バスベイについては、一般車が駐車することで本来の機能を果たせないという問題がある。バスが道路の中央側を走行してはどうか。街の景観がかなり変化し、歩道寄りの車道に一般車が駐車しやすくなり、構造上有効に利用できる。
11. 歩道の勾配が7分の1と急である箇所があるので、12分の1以下にしてもらいたいと考えている。歩道の勾配がきつくて歩けないようでは、店に人は来ない。この点から、歩道が拡がらない代替案第2案、第3案は問題である。
12. 駐車場へ出入りする際に、けやきは死角になる原因と考えている。

13. B区間は相当数の駐車場があるので基本案のように歩道を拓げれば、その分、側道への出入、駐車場への出入する際の距離が長くなり問題である。
14. 代替案第1案のデメリットとして、ゆとり空間がとれない、自転車と歩行者が分離できない、けやきの撤去・移植が必要である。
15. 整備済みのA区間にベンチや灰皿が備えているが、掃除ができていない。B区間においても、同様の問題が起こる可能性がある。維持管理についても誰が行うかなど考えていく必要がある。
16. 市民の方も一緒に作っていくという雰囲気を作らないと進んでいかない。すべてを行政に依存するのではなく、市民も責任を負っていくべきである。
17. 代替案についてだが、第3案については、イギリスのホーシャムに、景観に配慮して側道にタイルを貼った例がある。また第2案については、ベルギーのブリュッセルによく似た事例がある。
18. 代替案第2案がおもしろそうである。ギリシャにはオレンジ並木があるそうだが、和歌山ではみかん並木があったらいいなと思った。実現可能どうか確認して頂きたい。
19. 賑わいをつくるためには、車を停めて買い物ができるようにすべき。よって、駐停車スペースの確保が必要である。

●検討の進め方、通りのあるべき姿活性化について

20. 「SWOT分析」という分析手法がある。けやき大通りでの、強み (Strengths)は「けやき並木」、弱み (Weaknesses)は「にぎわいが少ないこと」、機会 (Opportunities)は「健康で歩いて楽しい環境」、脅威 (Threats)は「予算の制約」であり、そのような形で分析していくことも考えられる。
21. どの案にするかは、市民がどういう形で賑わいをつくっていくかを考えた上で決めるべき。
22. B区間の計画案が決まったら、A区間もその案で整備し直すのか。A区間とB区間が違うイメージになる可能性はあるのか。
23. 商店街の立場としては、店の前に人に歩いてもらいたいので、代替案第2案は問題である。ただ、どの案を良しとするかは立場によって異なるはず。何を優先すべきかについて、優先順位をつけなければならない。

○出席者一覧

村橋正武	大阪工業大学教授（委員長）
足立基浩	和歌山大学経済学部教授（副委員長）
有田佳秀	県都市計画審議会委員
津村武司	宮北地区連合自治会長
古河英雄	大新地区連合自治会長
津田成美	新南地区連合自治会長
吉岡穂積	広瀬地区連合自治会長
加藤正祐	和歌山駅前通商店街振興組合 理事長
太田淳二	けやき大通り商店街 理事長
東坂尚治	(株)近鉄百貨店和歌山店 店長
川野富喜子	和歌山商工会議所女性会 常任理事
釜中眞次	和歌山商工会議所青年部 会長
谷口正己	(株)ぶらくり 代表取締役
久 昭三	和歌山市紀州おどり実行委員会 会長
西平都紀子	NPO紀州お祭りプロジェクト 会長
西廣眞治	(社)和歌山青年会議所 理事長
今井克己	西日本旅客鉄道(株) 和歌山支社長
井上慎治	(株)和歌山県バス協会 会長
岩橋正典	(株)和歌山県タクシー協会 会長
山本 牧	和歌山まちづくり局長